

6年国語 一枚指導案集 「海のいのち」 立松和平作

②場面「ある日、～なかったのだった。」

本時の目標

- ・ある日父が漁から帰ってこなくて、いつもの瀬でロープを体に巻いたまま見つかったことを知る
- ・父が瀬の主で歩く絵を取ろうとした結果、亡くなってしまったことから、これまでの父の生き方とは違う姿であることに気づく。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>・②場面を読んでください</p> <p>ある日、何があったのでしょうか。どこに出かけていたと思いますか。父が漁をするのはどこでしたか。だから帰ってこなかったときにどこを探しましたか。すると何が分かりましたか。</p> <p>すぐに船が見つかったところの下を探しましたか。</p> <p>引き潮を待ってもぐってみるとどうなっていたのですか。</p> <p>ロープのもう一方の先には何がいたのですか。</p> <p>父はこの瀬で何をしようとしていたのですか。</p>	<p>①場面のときよりも立つ児童が増えてくる(ことを期待したい)。 指名された児童が音読(2~3名)</p> <p>夕方になっても父は帰らなかった。普段通り漁に出ていたと思う。流れが速くて誰ももぐれない瀬。</p> <p>いつも父が漁している瀬。空っぽの父の船が見つかった。ここで父が漁をしていたことがわかる。船が流されないように<u>錨</u>で固定して漁をしていた。</p> <p>空っぽの船が見つかった海でもぐり漁をしていた。見つかった船の下を探せばいいことがわかる。</p> <p>仲間の漁師が引き潮を待ってから海にもぐってみた。潮が引いて海の深さが浅くなってからもぐって探すことにした。水深が深いままだと流れが速いので、探しに行く仲間の漁師が危ないから。</p> <p>父はロープを体に巻いたまま、水中で<u>ことき</u>れていた。 ↳ 息が絶えていた 亡くなっていた</p> <p>光る緑色の目をしたクエがいた。クエには父のもりが刺さっていた。</p> <p>クエをしとめようとしていた。クエをしとめて聞きあげようとしていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から音読にチャレンジしようとする姿勢を評価する。(5班に期待) ・やる気を感じる具体的な評価をしながら指名するように心がける。 ・①場面の音読時と絡めて目向きな姿勢がいっそう感じられるようになった部分を見つけて評価していきたい。 ・一問一答的であってもいいのでテンポよくこの日の朝からの父の行動を予測するように進める。 ・この発言が出たら、どんなことがわかるのかを問い返していく。 ・船を固定することに気づいたら<u>称賛</u> ・ここで父はもぐり漁をしていたことが予想されるので、子どもたちなりの表現で伝えてくれることを期待したい。 ・引き潮を待つという行動の意味についても聞き返していく。 ・水深と流れな速さなどの面から、探しに行く仲間の漁師の安全に配慮したことに気づけた発言を「理由づけ」として値うちづける。 ・「こときれていた」という表現の意味をていねいに確認してから進む。 ・父の行動の予測がどの表現からわかるのかという証拠となる文章を見つけさせる。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>父を見つけた仲間の漁師たちはどうしましたか。</p> <p>そんなクエのことを漁師たちは何と表現しましたか。</p> <p>あまりにも瀬の主と呼んだクエが動かないので、結局どうしたんですか。</p> <p>ところで、この瀬での父の行動を、太一のおとうらしい行動だなあと、みんなは感じますか。</p> <p>③場面の予告 中学校を～共鳴させている。</p>	<p>ロープを体に巻いているのはクエを引き上げようとしていたと思う。 ロープのもう一方の先にはクエがいた。父のもりを体に刺したクエがいた。もりでクエを刺してしとめようとしていたと思う。 クエがまったく動かないので、手で引いていたロープを体に巻いて全身の力で引き上げようとしていた。</p> <p>何人がかりでも引き上げようとした。でもまったく動かない。 まるで岩のような魚だった。 それくらい力の強いクエだった。</p> <p>瀬の主 すごく強いクエにおどろいた。 瀬を守る存在のような気がした。 あまりの強さに尊敬に近い気持ちを抱いた。</p> <p>ロープを切るしか方法がなかった。 ロープを切って父を引き上げるしかなかった。</p> <p>おとうらしいと感じる おとうらしいとは感じない。</p> <p>らしい派 ・凄腕の漁師なので何とか強い獲物をとらえたいと思ったのではないか。 らしくない派 ・海のめぐみと考えているからそこまで無理をしてとらえようとはしないのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・父がクエと対峙したときの様子をできるだけくわしく出させたい。 ・K,M,Y,K,N,K,K,H,N,Tなど一部の児童に発言が片寄るかも知れないが、クエと向き合った時の父の様子を表現してほしい。⇒しっかりと評価する。 ・上記以外の児童の活躍には大きく評価する。 ・大勢の漁師たちが力を合わせても全く動かないクエの様子をていねいにとらえさせたい。 ・「主」という表現にこめられた漁師たちの思いにもふれさせたい。 ・子どもたちが感じ取りにくい場合には教師の解釈として説明を加える。 ・対立は生まれないかもしれないが、そう感じるわけについて出し合わせていきたい。 ・本字のヤマ場なので、意見が少ない時は自分の立場を明らかにさせてから、理由をノートに書き出させてみる。⇒班の中で交流後、発表につなげる。 ・らしくない派の意見はこれまでの父の生き方を表したもので、らしい派の意見は瀬の主であるクエに出会った時の父の姿を現したものと位置づけて整理しておく。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のちに出てくる与吉じいさの生き方のスタンスや太一が漁師として身につけていく生き方のスタンスと比較する元になるものとして教師が意識しておく。